

特定非営利活動法人 OurPlanetTV

2012年度 事業報告書

1、 事業実施の報告

「自分たちが欲しい情報を得るためには、そのメディアを支える必要がある」
そんな空気が生まれたことが、2012年の大きな成果でした。

2012年度は、委託制作の大幅減少によって、上半期はキャッシュフローを日々らみながら業務を行うような、非常に厳しい幕開けとなりました。しかし、6月から7月にかけて、大飯原発再稼働反対の声が高まるにつれ、官邸前抗議行動を報じないマスメディアに対して不信感が募り、その反動として、独立系メディアに対する認知や期待が急速に高まりました。

作家の広瀬隆さんの呼びかけにより、日本で初めて、市民のカンパによって空撮報道ヘリを飛ばすというプロジェクトが始動。カンパの受け皿となった「正しい報道ヘリの会」に対しては、1000万円を超える資金が寄せられました。OurPlanetTVもこの動画配信のメンバーとして、同プロジェクトに参加。官邸や国会前に溢れる人びとの生き生きとした姿を、動画で伝えることができました。

「自分たちのメディアを寄付で支えよう」

こうした声は、OurPlanetTVにも波及し、7月に入ると、オンラインによる寄付が急増しました。夜中、オンラインによる入金が続く様子は、日本におけるオルタナティブ・メディアの新しい幕開けを予感させました。

このほか、番組としては、新春に「私たちの未来は大丈夫？ー子どもが考える原発と被曝」を放送。2時間、子どもたちとともに考える番組は大きな反響を呼び、2月には放送ウーマン賞を受賞しました。また、4月に「徹底検証！テレビは原発事故をどう伝えたか」を配信。2011年3月11日から1週間のテレビ番組を番組そのものを引用するという挑戦的な取り組みを行い、日本ジャーナリスト会議(JCJ)賞を受賞。更に12月には、やよりジャーナリスト賞特別賞を受賞しました。

なお、2011年度から OurPlanetTV の理事に就任し、原発事故発生後、東電記者会見等で活躍された弁護士の日隅一雄さんが2012年6月12日にお亡くなりになりました。享年49歳でした。まさに、これから、様々な問題を追及し、改革を進めようとしていた矢先だっただけに、大変、残念でなりません。OurPlanetTV においては、アドボカシーの分野で、大変、重要な役割を担っていただいております。心からお悔やみを申し上げます。

日隅さんが数十年をかけて、成し遂げようとしていたメディアの改革を、私たち OurPlanetTV が担えるよう、遺志を継ぎ、取り組んで参りたいと思います。

代表理事
白石草

(1) 会員数 *2012年12月末日現在 (カッコ内は前年との増減)
*正会員 29 (1減)
*賛助会員 個人 188 (69増) 団体 6

(2) 従業員の状況 *2012年12月末日現在
*フルタイムスタッフ3名

(3) 活動の拠点
*東京事務所・京都事務所

2、 事業実施に関する事項

—コンテンツに制作に係る事業—

(1) 市民の視点や人権・環境を考慮にいたした番組の制作

独自企画番組の制作および配信

【事業内容】

映像作品 (ContAct/NewsClips/Documentary)

東日本大震災、福島第一原発事故から1年が経過し、マスメディアから震災、原発事故に関する情報が減る中、OurPlanetTVは、2011年に引き続き、子どもの被ばく問題および原発再稼働問題などに力を入れた。配信番組は計108番組(コンタクト28本、ニュース80本)にのぼった。

- ◆ 新春に「私たちの未来は大丈夫?—子どもが考える原発と被曝」を放送。放送ウーマン賞(2月)を受賞。また、4月には、福島原発事故直後のテレビ報道を検証する「徹底検証! テレビは原発事故をどう伝えたか」を配信。日本ジャーナリスト会議(JCJ)賞(8月)およびやよりジャーナリズム賞【メディアの役割】(12月)を受賞した。
- ◆ 6月に入ると、大飯原発再稼働の運動が盛り上がる中、OurPlanetTVは、官邸前での大規模な抗議行動を積極的に配信。6月末からは、「正しい報道ヘリの会」の撮影、配信技術メンバーとして、空撮ヘリ取材に参加した。
- ◆ 反響が大きかった番組は、1月の「井戸川町長インタビュー」、7月の「1年目の花見—二本松・同朋幼稚園」、9月の「移動教室で教育を変える!」など。また「持たざる者・いのち・公共性—堅川公園の野宿者排除を考える」「大阪市「子どもの家を守れ!—橋下行革プランで危機」といった貧困や社会的排除をテーマにした番組や「問われる表現の自由—ニコソロン写真展中止事件」など、表現の自由をテーマにした番組なども配信。「子どもの家」へも反響が大きく、大阪市は行革プランの見直しを表明した。

【配信実績】 ContAct 28本

1月2日	私たちの未来は大丈夫?—子どもが考える原発と被曝 Part1	雨宮処凛ほか
1月12日	脱原発世界会議—フクシマは世界に何を伝えるか—	井戸川克隆ほか
1月19日	ふくしま集団疎開裁判—子どもの被曝をめぐる判断を問う	井戸謙一ほか
1月26日	イエロー・ケーキの真実—脱原発を決意したドイツから—	ヨアヒム・チルナー
2月2日	原発の是非を決めるのは誰?—原発国民投票を考える—	今井一
2月9日	「福島からあなたへ」—スピーチに込めた思いとは	武藤類子
2月16日	持たざる者・いのち・公共性—堅川公園の野宿者排除を考える	稲葉奈々子
2月23日	カメラの後ろ側の311	安岡卓治
3月1日	避難者同士でつながり、支えあう—福島と全国をつなぐ拠点誕生	かん澤沙織ほか
3月8日	公正なテレビ局を取り戻せ!—闘う韓国の記者たち—	安田幸弘
3月15日	ポスト311時代を生きる—更地からはじめよう—	佐藤幸子
3月29日	日本でパブリックアクセスは実現するか?	下村健一
4月14日	徹底検証! テレビは原発事故をどう伝えたか?	広河隆一
4月19日	Fotgazet 通信・瓦礫に群がる震災ビジネス—広域処理の裏側	野田雅也
5月1日	Fotgazet 通信・26年目のチェルノブイリ最新報告	森住卓
5月24日	「年1ミリシーベルト」で避難の権利—チェルノブイリ法	ヴェリキン
6月7日	大阪市「こどもの家」を守れ!—橋下行革プランで危機	北村年子
6月19日	Fotgazet 通信・問われる表現の自由—ニコソロン写真展中止事件	安世鴻
6月19日	役場機能移転「年1ミリ以下」で—双葉町長が苦渋の決断	井戸川克隆
7月4日	【福島のいま】1年目の花見—二本松・同朋幼稚園	
7月9日	「架空の儲け」にメス入るか—東電料金値上げ問題	水上貴央
8月31日	放射能被害はなぜ隠蔽されるのか—フェルネクス博士	フェルネクス
9月6日	Fotgazet 通信・「東電の隠蔽体質は変わらない」原発作業員	T.S さん
9月11日	「移動教室」で教育を変える!—伊達市の挑戦	
9月22日	【福島のいま】力強く生きたい—自主避難から1年	長谷川克巳
11月27日	市民と規制委がメディア対決! 市民の声に規制委はどう応える?	佐藤暁など
12月12日	「原発事故は終わっていない—小出裕章さんインタビュー	小出裕章
12月26日	福島県外への避難に壁—年末で住宅支援打ち切り	野口時子

【配信実績】NewsClips70本

- 1月19日 【ドキュメント】ストレステスト審査へ市民を締め出して強行
1月28日 江東区、野宿者がいるエリアをフェンス封鎖～堅川河川敷公園
2月13日 大飯原発ストレステスト「妥当」に、専門委員が抗議の緊急声明
2月22日 「騙された」～大飯原発安全性「妥当」評価に専門家批判
3月5日 東電株主42人が代表訴訟、経営陣に5.5兆円損賠請求
3月12日 「追悼と怒り」1万人が国会を取り囲む
3月19日 バンダジェフスキー博士が会見～内部被ばくへ警鐘
3月28日 保安院が非公式データを記載～大飯原発ストレステスト資料
4月17日 経産省前で集団ハンスト～大飯原発「再稼働」に抗議
4月22日 小出裕章さんの反原発教室「優しく生きることと原子力」
4月28日 「早期に原発ゼロへ」～脱原発をめざす首長会議が発足
5月1日 5月5日の原発ゼロへカウントダウン～経産省前テント
5月6日 42年ぶり、「原発稼働ゼロ」になった5月5日
5月12日 日本初のダム撤去へ～熊本県荒瀬ダム
5月14日 国会事故調に東電・勝俣会長へ「当事者意識なし」あらわに
5月28日 菅元総理「国の責任」と「脱原発」力説！～国会事故調
5月29日 原発事故被害者の支援法、早期の成立訴え院内集会
5月3日 「命の問題だ」生活保護バッシングに緊急会見
6月2日 「再稼働反対！」～首相官邸前に市民2700人
6月7日 再審決定のゴビンダ氏釈放へ～東京電力女性社員殺害事件
6月7日 再稼働はやめて！～官邸前で女たちが抗議のダイイン
6月8日 野田首相の再稼働宣言に4000人が抗議
6月12日 福島の1300人が告訴状提出～東電会長ら33人
6月12日 6月29日19時～官邸前アクション空撮ライブ
6月13日 メディア改革に力を尽くした日隅一雄さん逝去
6月14日 【被災者支援法】1ミリ目指す～「避難の権利」へ大きな一歩
6月23日 再稼働撤回を求め～官邸前に人の波
7月2日 「再稼働反対」～官邸前、人で埋め尽くす
7月3日 【ドキュメント】市民による官邸上空空撮プロジェクト
7月3日 大飯原発の破砕帯～関電が資料出さずに審議延期
7月14日 過剰警備の中、多様な表現あふれる～官邸前行動
7月16日 17万人が「脱原発」訴える～さようなら原発10万人集会
7月17日 国会記者会館の屋上使用をめくり、仮処分申し立て
7月17日 大飯原発～活断層の疑い消えず、現地調査へ
7月25日 原子力規制委員会の人事案、撤回求め会見
7月29日 脱原発の鎖が国会包囲～議事堂前に解放区！
8月4日 「人事案撤回」の声、霞ヶ関に響く～原子力安全規制委
8月6日 東京電力が原発事故後の会議映像を一部公開
8月6日 「インターネットの自由を守れ」官邸前でNO ACTA！
8月7日 広瀬隆氏が、規制委員長候補の田中俊一氏を告発
8月7日 【オピニオン】東電テレビ会議映像～全ての人に公開必須
8月18日 脱原発の夏～お盆でも熱い永田町と霞ヶ関
8月22日 ネバーギブアップ～野田総理に脱原発運動継続宣言



(2) 人権・環境を考慮に入れた国内外の優れた映像作品の翻訳・紹介

映像コンテンツの翻訳

翻訳ボランティアと協力しながら主に番組の英訳を随時進めた。

映画紹介

【事業内容】

映画紹介は監督インタビュー番組2つのみで十分にできなかった。

- ◆2月23日 『カメラの後ろ側の311』安岡卓治(映画「311」共同監督、映画プロデューサー)
- ◆1月26日 『イエロー・ケーキの真実～脱原発を決意したドイツから～』ヨアヒム・チルナー(映画監督)

—市民の情報発信(パブリック・アクセス)に係る事業—

(3) 子ども・市民のための映像制作教育

映像ワークショップ

【事業内容】

- ◆ 通常の映像ワークショップを年4回開催。夏期は平日3日の連続集中講座としたために、受講者が思うように集まらなかった。
- ◆ 受講者は、20代～60代と幅広く、福島・静岡・宮城・愛知など遠方からの参加者も増えた。脱原発の声が高まる中、福島からの参加者が、長年反原発運動を牽引してきた市民団体「たんぼぼ舎」を取材した作品はネット上で話題となった。
- ◆ 単発講座として、9月に脱原発・市民ジャーナリスト講座を開催。情報公開の請求方法などについてレクチャーした。
- ◆ 経験者を対象とした映像ワークショップ「DIYビデオのアトリエ」が10月に開講した。講師は、前2回と同様に映画監督の土屋豊さん。映像ワークショップ入門コースを卒業した人など、6名が受講生している。(定員7名)。また同ワークショップで完成した金子サトシさん制作のドキュメンタリー「食卓の肖像」が、2013年春に劇場公開される予定。

【実施期間】

- ◆ 1月～3月 冬期映像制作ワークショップ(8人)
- ◆ 4月～7月 春期映像制作ワークショップ(11人)
- ◆ 8月 夏・三日間集中講座(4人)
- ◆ 9月 脱原発・市民ジャーナリスト講座(9人)
- ◆ 10月～12月 秋期映像制作ワークショップ(12人)
- ◆ 10月～2013年11月 D I Yビデオのアトリエ(6人)

【ワークショップ完成作品】

- ◆ 2012年冬「スイーツ」「新宿おなべバー」
- ◆ 2012年春「凡人だもの～坊主bar」「荻窪～『三人灯』」
- ◆ 2012年夏「たんぼぼ舎って何?」「おむすび屋」
- ◆ 2012年秋「アルミ缶は誰のもの?」「デモ割」「泥だんごって何だろう?」「谷中商店街」

(4) 市民が情報発信を行うためのインフラ・機材及び交流の場の提供及び環境づくり

メディアセンター

【事業内容】

- ◆ ライブ配信のパッケージ利用として、「福島の子どもたちを守る法律家ネットワーク(SAFLAN)」が定期的な配信契約を結ぶなど、機材の貸し出しと編集機の利用が増えた。
- ◆ 助成金を利用して機材の刷新を行い、Macのノートパソコン4台とHDDを新規に購入した。
- ◆ 2011年度に計画していたオフィスシェアとして、2012年1月より、ドキュメンタリー監督森元修一さんが入居。見学、問合せが複数回あった。

アドボカシーおよびキャンペーン活動

【事業内容】

放送ウーマン賞の受賞を記念して、4月に東京で、7月に京都で「メディアをつくる—小さな声を伝えるために」と題した講演会を実施。ブックレット「メディアをつくる—小さな声を伝えるために」(岩波書店)と併せ、メディアの構造的な問題に関して、世論を喚起する取り組みを行った。

また、官邸前抗議行動に関連して、国会記者会館の屋上からライブ配信を求めたものの、国会記者会から拒絶されたため、東京地方裁判所に仮処分の申立てを実施。(7月)また、衆議院からも行政処分を却下されたことから、国家損害補償裁判と国会記者会を相手取る損害補償裁判を提起した。(9月)記者クラブ問題の根本を問う重要な裁判として、社会的にも注目を集めている。

(5) 社会貢献を行う行政・企業・団体への映像・メディア支援

映像コンテンツなどの受託制作

【事業内容】

NPO、企業ともにVTR構成ものの動画制作は低調だったが、ライブ配信事業が伸びている。1月には脱原発世界会議を実施し、およそ30人体制で、複数の分科会を配信。また、11月には、城南信用金庫が主催のイベント「よい仕事おこしフェア」をライブ配信した。簡易なCMSサイトを構築する仕事などが増えている。

- ◆ 地域コーディネーターのための広報教材(日本社会福祉協議会)
- ◆ よい仕事おこしフェア動画サイト配信(城南信用金庫)
- ◆ ベトナム少数民族手工芸支援プロジェクトビデオ(国際開発救援財団)
- ◆ ぼかぼかプロジェクトビデオ制作(国際環境NGO FoE Japan)
- ◆ パーソナルサポート研修ライブ配信(社会的包摂サポートセンター)
- ◆ 脱原発世界会議ライブ中継費用(脱原発世界会議実行委員会) など

NPOのための広報セミナー

【事業内容】

入門編、インターネット編(SNS活用)、ビデオ活用編(youtube/Ustream)の3つを1コースとし、1月と10月に実施した。当日受講できない方、また遠方の方も受講できるよう、オンライン受講を広く呼びかけた。ライブ配信での受講だけでなく、オンデマンド受講のニーズも高まった。

【実施】

- *前期 1月23日『NPOのための広報入門編』参加者7名(オンライン2名)
1月24日『インターネット活用編』参加者9名(オンライン0名)
1月25日『ビデオ活用編』参加者6名(オンライン0名)
- *後期 10月9日『NPOのための広報入門編』参加者20名(オンライン7名)
10月16日『インターネット活用編』参加者22名(オンライン10名)
10月23日『ビデオ活用編』参加者19名(オンライン7名)

講師派遣

【事業内容】

広報戦略などに関する外部からの依頼としては、部落解放同盟のセミナー(10月)、全国社会福祉協議会企画の広報セミナー(3月、10月)に参加した。特に全国社会福祉協議会に関しては、企画やテキストの作成など、事業の実施全般に関わった。また、一般的な講演は、震災後しばらくは減っていたが、秋以降、例年並みの講演を実施している。

【実施】

- 1月8日 「広報戦略セミナー」 かながわ女性会議
- 3月2日 「市民メディアの可能性—作る視点・市民メディアの可能性」 千代田区女性センターMIW
- 3月4日 「NPOのための広報セミナー・ビデオ活用編」 郡山市民活動センター
- 3月15日 「原発事故・放射能汚染と市民の知る権利—市民メディアの役割」 青山学院大学
- 5月6日 「5月のちいさな文化祭」 高円寺書林
- 5月12日 「メディアリテラシーで子どもを守る」 くれよんはうす

- 5月17日「市民の目に立つ原発報道—信頼できる情報とは—」東京女子大学
- 5月27日「『災後』日本の社会とメディア」新聞労連
- 5月31日「メディアをつくる—「小さな声」を伝えるために」駿河台大学
- 6月13日「メディアをつくる「小さな声」を伝えるために」龍谷大学
- 6月13日「検証、原発事故をテレビはどう伝えたか」龍谷大学
- 6月16日「『ハンズム』で日本は沈む!? 橋下政治の正体、メディアは究明を」JCJ
- 6月29日「非営利ネット放送とファンドレイズについての報告」龍谷大学
- 7月8日「いま、求められる情報とは—」市民活動資料センター（立川）
- 7月11日「社会福祉団体のための広報セミナー」全国社会福祉協議会
- 7月14日「一日、まるごと！つながれっとシアター」名古屋男女共同参画推進センター
- 7月21日「テレビは何を伝え、何を伝えていないか 原発の隠された真実」岩手県医療労働組合
- 7月24日「御用メディアと市民メディア」たんぼぼ舎
- 7月29日「くにたち市民メディア構想会議—市民がメディアの主役となるために」国立市公民館
- 9月1日「くにたち市民メディア構想会議—市民がメディアの主役となるために(2)」国立市公民館
- 9月6日「「つながる力」が日本と世界を変える—持続可能な未来をつくる、
メディア・情報・コミュニケーションとは？」ジャパン・フォー・サステナビリティ
- 9月26日「原発とどう向き合うのか？～未来へとすすむ、あなたへ～」環境と健康を考える会
- 9月29日「女性とオルタナティブメディアの可能性」ふえみん
- 10月3日「福島・沖縄の犠牲はなぜ伝えられないのか～メディアを問う」NPJ
- 10月12日「メディアと男女共同参画—メディアの可能性を探って」内閣府／明治大学
- 10月13日「小さな声を伝えるメディア」カタログハウス
- 10月15日「メディアをうらむな、メディアをつくれ—市民メディアの可能性」PARC
- 10月17日「小さな声をつたえるために」草奔の会
- 10月24日「市民メディアが向き合う「ふくしま」」武蔵大学イブニングスクール
- 11月14日「広報セミナー」社会保険協会連合会
- 11月25日「JCJジャーナリストセミナー市民メディアの可能性」JCJ
- 12月1日「医療セミナー基調講演」岩手医療生協（八幡平）
- 12月8日「現代日本のメディアアクティビズム」東京大学
- 12月7日「東日本大震災とメディア」群馬大学
- 12月8日「小さな声を大きな力に」放送を語る会
- 12月16日「こんな世の中ひっくり返さなあきまへん」国際有機農業映像祭
- 12月18日「広報セミナー」東京プレイ

組織

ファンドレイジング

寄付拡大のため認定NPO取得を目指し、申請書を8月に提出。11月に東京都のヒアリングを経て、2013年2月に認定を受ける予定。通常のオンライン寄付は、官邸前抗議行動を空撮したプロジェクトをきっかけに爆発的に増加した。個人からの寄付が急激に拡大したと同時に、年間を通して寄付が途切れることはなかった。

ファンドレイジングイベントとしては、放送ウーマン賞受賞記念シンポ（4月）、京都講演会（6月）を開催。会員獲得と寄付拡大につながった。その他脱原発系イベント会場などでの呼びかけを通して、インターネットを離れた場で、顔の見える広報活動も行うことができた。

- ◆ 新規入会者名 91名（賛助会員個人のみ） ※退会者 22名
- ◆ 寄付総額はこれまでの最高額で 400万円以上 寄付者 255名

スタッフ体制

昨年に引き続き、フルタイムスタッフは3人体制となった。8月～10月下旬までの期間は、休職したスタッフの業務を補うためアルバイトスタッフを雇った。「脱原発世界会議」や「よい仕事おこしフェア」など、各イベントでボランティアを募り約40名が活動に参加した。インターン受け入れは13名。

2012年度 収支報告
2012年1月1日～2012年12月31日

科目	【予算】支出の部	支出の部	【予算】収入の部	収入の部
事業 収入			14,500,000	12,972,310
番組制作情報提供			500,000	592,845
映像作品紹介			50,000	0
メディア教育支援			3,350,000	3,876,677
メディア環境整備収入			600,000	728,600
社会貢献メディア支援			10,000,000	7,774,188
会費収入			2,000,000	1,600,000
助成金収入			-	2,870,000
寄付金収入			2,500,000	4,071,396
取材謝礼・原稿料収入			-	174,500
雑収入			-	156,800
受取利息収入			-	347
収入 計			19,000,000	21,845,353
番組制作情報提供支出	1,500,000	1,201,999		
映像作品紹介支出	50,000	0		
メディア教育支援支出	220,000	1,075,814		
メディア環境整備支援支出	100,000	196,017		
社会貢献メディア支援支出	1,150,000	2,016,020		
給与手当(事業)	9,000,000	8,505,099		
事業費 計	12,020,000	12,994,949		
法定福利費	1,500,000	1,233,879		
福利厚生費	10,000	2,297		
通 信 費	440,000	552,570		
荷造 運賃	100,000	89,190		
水道光熱費	400,000	393,298		
旅費交通費	500,000	321,740		
会 議 費	20,000	23,281		
事務用消耗品費	100,000	119,118		
備品消耗品費	500,000	336,588		
新聞図書費	200,000	36,404		
印刷 経費	250,000	268,221		
修 繕 費	200,000	170,629		
地代 家賃	2,120,000	2,116,800		
保 険 料	30,000	27,600		
租税 公課	500,000	311,050		
諸 会 費	10,000	16,312		
雑費	-	39,810		
支払手数料	100,000	56,550		
管理費 計	6,980,000	6,115,337		
支出 計	19,000,000	19,110,286		
当期収支差額				2,735,067

貸借対照表
2012年12月31日現在

科 目	金 額 (単位:円)		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	10,627,421		
その他流動資産	316,370		
流動資産合計		10,943,791	
2 固定資産			
固定資産合計		1,092,000	
資産合計			12,035,791
II 負債の部			
1 流動負債			
流動負債合計		1,795,028	
2 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			1,795,028
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産	7,907,711		
当期正味財産増加額		2,735,067	
正味財産合計			10,242,693
負債及び正味財産合計			12,037,721

財産目録
2012年12月31日現在

科 目	金 額 (単位:円)		
I 資産の部			
1 流動資産			
預金	9,173,227		
現金	102,942		
郵便振替	1,351,252	10,627,421	
その他流動資産	316,370		
流動資産合計		10,943,791	
2 固定資産			
保証金	1,092,000		
固定資産合計		1,092,000	
資産合計			12,035,791
II 負債の部			
1 流動負債			
前受金	1,565,500		
預り金	229,528		
流動負債合計		1,795,028	
2 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			1,795,028
III 正味財産の部			
正味財産合計			10,242,693